

400年の「モノがたり」 つなぎ続けた主役—それが職人たち

約400年前、徳川家康公の駿府城築城期から現代へ脈々と流れ続ける「静岡モノづくり」の源流。

本展では、今から37年前（平成元年）、伝統工法で忠実に蘇った駿府城 巽櫓「竹千代手習いの間」の復元を担った名工たちの記憶・想いを辿ります。そして、今なお脈々と生き続ける職人の卓越した技と、その奥にある熱い想いの「モノがたり」に迫ります。



大間悠司 指物師

一寸の狂いもなく美しく組み上げられた指物師の技による木組み。その細やかさの奥に、使う人を想う優しさ、ため息が出るほどの美しさと柔らかさが同居する木製調度品。
名工が“手習いの間”復元に注いだ極限の手仕事は、今も作品の中に息づいています。



鳥羽鏝一 塗師

漆の気品ある艶に、砂が唯一無二の深みを与える「金剛石目塗」。初代である父・清一氏の技と想いを継ぎ、“手習いの間”に美を添えた。
鏝一氏が守り抜いた至高の技と想いは、今も色褪せることなく、次の世代へと受け継がれています。



青島清一 建具職人

全国伝統建具技術保存会の初代会長など要職を歴任。“手習いの間”復元の現場で何度も手直し等、37年経っても当時の記憶は、昨日のここのように鮮明。
「みんなに良くしてもらった」と語る姿に、優しい人柄が光り、生涯現役の職人魂が息づいています。

静岡モノづくり、 職人の技と想い展。



COCOCARA
SHIZUOKA

2026

6/26(金)～8/2(日) 9:00-18:00

※月曜休館日（国民の祝日・休日の場合は開館、翌平日休館）

静岡市歴史博物館 静岡県静岡市葵区追手町4-16

★展示場所：1階遺構エリア ※ご観覧は無料です。

※本展はパネル展示となります（実物展示はございません）。

※連続企画として、職人の想いと作品に触れるイベントも今後開催予定。

主催：ココカラ静岡 | <https://cococara-shizuoka.net>

共催：静岡市歴史博物館

